


『北の住まいるタウン』の基本的な考え方』の概要

第1章 《はじめに》

『北の住まいるタウン』の基本的な考え方』策定の趣旨

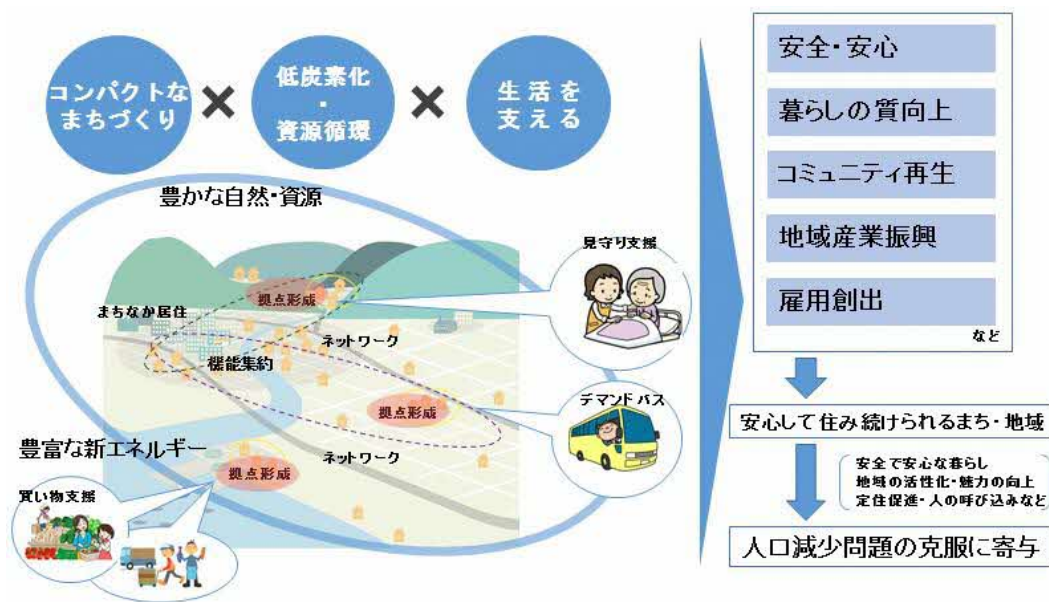
第2章 《北海道の現状と課題》

| | | | |
|-------|--|-----|--|
| 現状と課題 | <ul style="list-style-type: none"> ○全国を上回るスピードでの人口減少、少子高齢化 ○広域分散型都市構造 ○全国に比べ多い温室効果ガス排出（1人当たり） | 優位性 | <ul style="list-style-type: none"> ○広大な面積を有するなどの地理的特性 ○優れた自然環境 ○高い食料自給力 ○豊富な新エネルギー賦存 ○寒冷地で培われた独自の技術 |
| |  | | <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活利便性の低下、安全・安心への不安、健康・福祉面への影響、地域経済の疲弊、行政運営の非効率化、環境への負荷増大、非効率なエネルギー消費</p> |

第3章 《北の住まいるタウンの目指す姿》

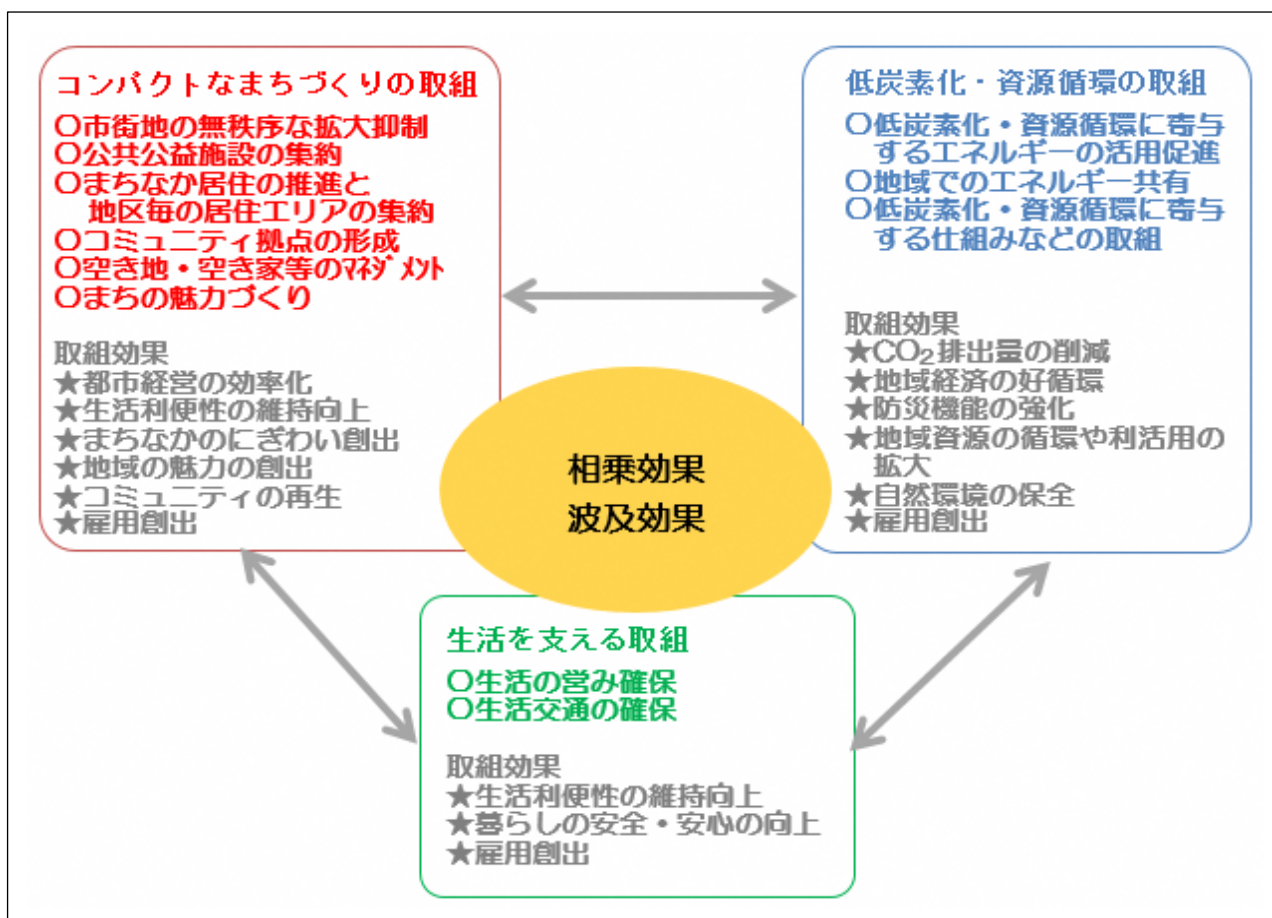
【北の住まいるタウンの目指す姿】

北海道の優位性が活かされ、地域特性に応じ、安全・安心で暮らしやすく資源循環が進んだ効率的な都市構造を有する、誰もが安心して心豊かに住み続けられるまち・地域。



第4章 《北の住まいるタウンの取組》

【北の住まいるタウンの取組方針と効果】



【進め方】

- ◆地域課題と将来ビジョン（目標）の共有
- ◆連携と協働により一体的に取組を推進
- ◆推進に向けた計画づくり
- ◆将来を見据えながら地域の状況に応じて段階的に検討

第5章 《北の住まいるタウンの実現に向けて》

(1) 地域を支える多様な主体の役割

- 住民 身近な問題や地域課題に関心を持ち、危機感や将来の可能性を共有し、複合的な視点に立ち解決に向けて行動
- 企業やNPO等の団体、教育機関等 組織力、ノウハウ、専門性、民間活力を活かした支援
- 市町村 住民との情報共有、民間事業者の参入しやすい環境づくり、横断的視点による地域のコーディネート

(2) 道の役割

- 普及啓発 ホームページやパネル展、フォーラムの開催などを通じて広く発信
- 総合的な推進 相談窓口、産官学連携による協議会を設置するとともに、庁内関係部局等の横断的な連携のもと、取組を推進
- 市町村に対する支援 事業の実施手法や関連情報、関係者等との連携・調整など市町村が推進する際の課題などに対して情報提供や助言・協力